




論文審査の結果の要旨および担当者	
学位申請者	田村 誠朗
論文担当者	主査 都築 建三 
	副査 金澤 伸規 
	副査 橋 俊哉 
学位論文名	SAPHO 症候群 30 例の臨床的特徴と血清サイトカイン値に基づく クラスター分析
論文審査の結果の要旨	
<p>SAPHO (Synovitis, Acne, Pustulosis, Hyperostosis, Osteitis) 症候群の原因は現在も不明で、病態とサイトカインとの関連に統一された見解はない。IL-23/Th17 軸に属するサイトカインの関与が報告されているが、その役割は明確になっていない。本研究は、SAPHO 症候群における血清中サイトカイン[IL-17、IL-22、IL-23、可溶性腫瘍壊死因子 α 受容体 (sTNFαRI および II)]を解析し、臨床的特徴との関連性を解明することを目的とした。</p> <p>2014 年から 2018 年にかけての SAPHO 症候群と確定診断された 30 症例のレトロスペクティブな観察研究を行った。診断時年齢は平均 51.8 歳、男性 10 例、女性 20 例。胸鎖関節炎は全例(100%)に認め、末梢性関節炎は 11 例 (36.7%) に認められた。</p> <p>サイトカインレベルの分析結果は、体軸性関節炎と掌蹠膿疱症 (PPP) を有する患者群において IL-22 の値が上昇していた。一方で、末梢性関節炎や胸鎖骨過骨症の患者ではそのような傾向は見られなかった。PPP の有無によるサイトカインの単変量解析では、PPP を有する例が PPP を有さない例に比較して IL-22 値が著明な高値を認めた。クラスター分析を行った結果、PPP を有する群では IL-22 と IL-23 の値が高く、関節炎を有する患者群では sTNFαRI および II が高値であった。これらの結果は、SAPHO 症候群が単一の病態ではなく、複数のサイトカインが異なる病態に関与していることを示唆する。</p> <p>結論として、SAPHO 症候群は IL-17 に関連する骨病変、TNF に関連する関節炎、IL-23 に関連する PPP を含む不均一な症候群であると考えられた。これらの知見は、SAPHO 症候群の治療アプローチの開発において考慮すべき重要なポイントであり、特定のサイトカインに焦点を当てた治療が有効である可能性を示唆している。</p> <p>学位申請者が本研究で示した成果は、SAPHO 症候群の病態解明、さらに予後を推測した有効な治療方法の選択につながるものであり、学位授与に値すると評価した。</p>	